

信じられないほどの暑さを感じる日が続いている中、授業が始まりました。夏休みを切り上げたの長い授業期間は初めてのことで、各校の教職員の皆さんには、是非多くの議論を重ねて、工夫を加えた子どもたちの毎日が送られることを期待しています。宜しくお願いします。

現在のコロナ禍ではありませんが、これからは正解の出せない状況下で自らの行動を判断する力が必要になります。文化の進歩するスピードが私たちヒトの生物学的進歩を上回っているせいか、近い未来でも予見が不可能な課題が多くあります。文化が進めば進むほど、必然的に学習内容は高度化します。児童生徒も教員もお互いに成長していかなければなりません。多様な学びが必要になる大きな要因と考えます。

これまでのように、問題解決型学習をメインにして、一コマ一コマ同じような指導を続けていては、いつも正解を導けば良い授業になってしまいます。しかし、子どもたちの未来を考えたら、どうでしょうか。正解がわからない授業があっても良い、正解が一つではない授業も必要なのです。そういう意味では「総合的な学習の時間」等の在り方が大きな鍵になるかもしれません。

とは言いながら、各校の子どもたちの実態は異なります。学校として学力の底上げを目標とするのであれば、知識あるいは正解を求める問題解決型学習に重心を置いたカリキュラムがあっても良いのです。ドリルを効果的に取り入れることがあっても良いのです。学年、学級単位として、教科として、単元として、それぞれに子どもたちと教員の実態からどのような計画で授業を進めるか、を考えなければならない時が来たのです。

秋になれば、ICT環境が整い始め、より多様な学習が可能になります。皆さんの工夫の見せ所です。家庭学習に予習を出す日と復習を出す日があっても良いのです。教室と校内、校外、対面授業と遠隔授業、多人数授業と少人数授業、一斉授業と分散授業、予習型授業と復習型学習、探求学習や反転型学習など、それぞれの学びの長所短所、役割を試してみるくらいの気持ちで取り組んでいただきたいと思います。

研修等、全校で取り組むためには教務主任や研究主任の皆さんの力が要になりますが、まずは、一人一人の先生が一つの単元について、どのような視点で授業を組み立てるか、どのような取り組みやすいことから始めていただければと考えます。例えば、〇〇科のこの単元は予習をしやすい → 教科書あるいは自作教材、ICT教材で予習型の家庭学習を進める → 反応を基に単元の流れを組み立てる。あるいは、理解が難しい単元 → 予習ではなく、従来のように問題解決型学習の授業を進める → ドリルなど復習を家庭学習にする。という具合です。そのためには単元の内容と特徴をしっかりとつかんでおく必要があります。

教育という活動はヒトという生物しか行わないものです。多様な学びの中で、「教える」という行為と「学ぶ」という行為が効果的に行われ、五感が共有されることによって、子どもたちは自身の成長が得られ、私たち教員は喜びと充実感を得て、教員としての存在意義を覚えると思えます。児童生徒が、これからの高度情報化に漂流していく人ではなく、自分の頭で、自分なりに考えるというヒト科のヒトの力を身につけるように育てていかなければなりません。教育の新たな使命感を認識して、「主体的、対話的で深い学び」の実現のために、予習型学習という学びを工夫の一つに加えていただき、実りの秋を迎えられることを願っています。